

環境心理生理運営委員会 議事録 2015 年度 第 4 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2016 年 2 月 22 日 月曜日 (17:30~19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 西名大作 (主査)、辻村壮平 (幹事)、大石洋之 (幹事)、
秋田剛、合掌頭(skype 参加)、土田義郎、楨究、
松原斎樹(skype 参加)、宗方淳 順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 4-0 環境心理生理運営委員会議事次第 20160222
4-1 H27 年度_第 3 回議事録 (案) (2015.11.19)
4-2 20160222_環境工学本委員会 (第 4 回) 議題
4-3 2015 年度小委員会活動成果報告 (環境心理)
4-4 2015 年度小委員会活動成果報告 (社会と環境心理)
4-5 2015 年度小委員会活動成果報告 (感覚・知覚)
※配布資料は、原則、オンラインストレージにより配布

E. 【報告事項】

1. 2015 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認 (資料 4-1)

2015/11/19 に開催された第 3 回環境心理生理運営委員会の議事録 (案) について確認を行った。内容に関して指摘・意見はなかったため、正式な議事録とすることとして承認された。

2. 環境工学本委員会 (2016/2/22) 報告 (資料 4-2)

第 4 回環境工学本委員会の内容で本運営委員会に関連の深い事項について西名主査から報告があった。以下に報告の内容を示す。

■ 2015 年度大会 (関東) 概要報告

環境工学部門の発表題数は 1252 題で、欠席者は環境工学全体で 34 名 (2.7%) であった。

研究協議会の参加者は 293 名、研究懇談会の参加者は 35 名、設計競技公開審査の参加者は 47 名であった。研究協議会資料の残数は 54 部、研究懇談会資料は 58 部である。

OS の講評が未提出のセッションがあり、当該セッションには事務局より対応の要望が出ている。

発表登録費の未払いが全体で 66 名であり、その内、環境工学分野で 10 名が該当している。発表登録費未納の人は翌年度の発表が不可となる。

■ 大会若手優秀発表賞の創設

2016 年度より、これまでの大会若手優秀発表表彰の名称が「大会若手優秀発表賞」と変更される。

■ 2016 年度開始特別研究委員会テーマ

加藤信介先生を代表者とした 8 名の委員会が設置された。

■ CiNii 終了に伴う学会論文等の電子データ公開方法について

論文集と技術報告集は CiNii から J-STAGE に移行する。

■ 第 29 回環境工学連合講演会

2016/5/13 (金) に開催予定であり、2016 年度は機械学会の主催である。

テーマは「未来を担う環境工学」で、講師は産総研の佐藤先生。

■ 論文集委員会の委員推薦依頼

音環境、光環境、水環境、環境設計、都市環境・都市設備の各運営委員会から選任されている委員が退任となるため、各運営委員会から新たに論文集委員会へ委員を推薦することとなっている。

■ 技術報告集委員会の委員推薦依頼

光環境、熱環境、空気環境、建築設備の各運営委員会から選任されている委員が本年度で退任となる。現在、光環境と心理生理をあわせて 1 名選任されることとなっており、本年度まで宗方委員が光環境運営委員会からの推薦で、技術報告集委員会の委員を務められていた。次年度からは心理生理から委員を推薦しなければならない。

■ プログラム編成会議委員の選任

各運営委員会からプログラム編成会議への委員の選任を行わなければならない。学会事務局から、旅費に留意して選任をお願いする、と説明があったため、できる限り首都圏在住の方に依頼する。

開催日時：2016/4/21（木）13 時～

■ 大会講演発表要項及び司会要領の改訂

環境工学分野の研究発表はセッションごとにまとめて質疑応答の時間を取っているが、計画系では、発表ごとに質疑をとるかセッションごとにまとめるか、司会者の判断で決めて良いことになっている。OS などの発表により質疑応答まで間延びするのを防止出来るなどの利点があるため、環境工学分野でも発表ごとに質疑応答を行うか、セッションでまとめるか、司会者の判断で決めて良い、という文言を司会要領に追加することが提案され、環境工学本委員会承認された。

■ 広報委員の指名依頼

環境工学本委員会から岩田先生が選任された。

■ 2016 年度大会の研究協議会、PD、研究懇談会の開催日

2016 年度大会では研究協議会が 2 日目午前、PD が 1 日目午後（2 日目午後、一般講演の教室に変更される可能性あり）、研究懇談会が 3 日目午後となっている。プログラム編成の際には、2 日目午前を空けるように注意すること。

研究協議会：「環境シミュレーションと建築デザイン」九州大学の尾崎先生が幹事。

PD：「居住性能評価指針」環境振動運営委員会が提案。

研究懇談会：「建築環境工学の国際的役」東海大学の岩田先生が幹事。

■ 2016 年度大会の懇親会

日時：2016/8/25（木）19 時～

会場：TERASO（博多駅東側付近）

■ 大会若手優秀発表賞の実施要綱の改正

2016 年度より、これまでの大会若手優秀発表表彰の名称が「大会若手優秀発表賞」と変更されるにあたって、これまでの審査基準や審査方法等の審査要綱を再確認し、現在のままでよいか各運営委員会で審議する。

「大会若手優秀発表賞」の審査要綱は 3 月中旬～下旬に学会 HP で公開する。これまでの若手優秀発表表彰で受賞された方も「大会若手優秀発表賞」の審査対象となる（「大会若手優秀発表賞」を一度受賞された方は対象外となる）。

審査対象となる年齢については、各運営委員会で有資格者を備考で定めるように本運営委員会から意見した。本運営委員会では、「年齢にかかわらず大学院在籍中、修了後 2 年間

まで」と備考に記している。審査の対象者となるか否か、発表者にわかってもらうため、4月の電子投稿の締切り前には周知する。

■ 企画刊行運営委員会関連

(AIJES)「鉄道沿線における変動磁場の計測評価法規準・同解説」、(AIJES)「照明環境規準」、AIJ benchmarks for validation of CFD simulations applied to pedestrian wind environment around buildings 刊行計画書の3つが承認されて刊行委員会に移行した。

■ 委員会の英文名称

委員会の英文名称は以下のように統一する。

- ・運営委員会の英語 “Managing committee on ~”
- ・小委員会の英語 “Sub-committee on ~”

■ 2015年度末に設置期間が終了する委員会のオンラインストレージの削除

2015年度で終了する小委員会あるいはWGのオンラインストレージサーバーからデータが削除されるので、データのバックアップをとるようにしてほしい。

■ 予算執行状況

本運営委員会と傘下の小委員会における予算執行状況は、運営委員会 92 %、環境心理小委員会 0 %、社会と環境心理小委員会 82 %、感覚・知覚心理小委員会 72 %となっている。なお、環境心理小委員会については、2016/3/3に開催する小委員会で予算は全て支出されると榎委員から説明があった。

残予算の執行に関して、宗方委員から、過去に自腹の委員に遡って支払うことは可能か否か、という質問が挙げられたが、運営委員会では判断できず、宗方委員が事務局に確認することとなった。環境工学本委員会の羽山委員長から予算は全て支出するように指示が出ている、と西名主査から説明があった。

F. 【審議事項】

1. 技術報告集委員会への委員の推薦

2016年度からの技術報告集委員会の委員を本運営委員会から選任しなければならず、本運営委員会から推薦する委員について活発な議論が行われた。これまで務められていた委員は、讚井委員（2007-2008年度）、西名主査（2009-2010年度）、丸山玄氏（2011-2012年度）、宗方委員（光環境から選任）（2014-2015年度）となっている。2013-2014年度は不明である。これを参考に審議が行われ、秋田委員が自薦されたため、本運営委員会からは秋田委員を推薦することで承認された。

宗方委員から、技術報告集委員は部門幹事が査読者を選定し、部門幹事名で依頼するので、論文集委員よりも負担が多いという意見が挙げられた。

2. プログラム編成会議への委員の選任

2016/4/21（木）に開催されるプログラム編成会議の委員の選任について活発な議論が行われた。なお、プログラム編成会議当日、1名は午前中から出席しなければならない。旅費に留意して選任しなければならないため、まずは首都圏在住の方が候補として挙げられた。プログラム編成会議の委員候補として挙げられた方は以下のとおりである。

- ・秋田委員（騒音制御工学会での発表のため出席は難しい）
- ・大石委員（出席可であるが、業務の都合で不可となる可能性もある）
- ・辻村委員（出席可）
- ・土田委員（出席できる方が少なければ出席するために調整することは可能）
- ・榎委員（授業と学内業務のため出席は難しい）

- ・宗方委員（学内業務のため出席は難しい）
- ・佐野先生（出席して頂けるか否か、秋田委員から依頼）
- ・小島委員（午前から出席して頂けるか否か、西名主査から依頼）
- ・古賀先生（午前から出席して頂けるか否か、西名主査から依頼）

3. 「大会若手優秀発表賞」の審査要綱について

大会若手優秀発表賞の審査要綱について、これまでの審査基準、審査方法、備考を再確認し、改めてその内容について議論が行われ、以下のようなこれまでの審査要綱のままでよいことで合意に至った。

- ・審査基準 → 研究内容、プレゼンテーション、質疑等の受け答えの3項目
- ・審査方法 → ◎：10件に1件程度、○：5件に1件程度、△：平均程度、レ：平均以下
- ・備考 → 大学院在籍中、あるいは大学院修了後2年以内

選出人数についても、これまでと同様に1割くらいを目安とし、審査員は本運営委員会から選任する（非公開）ことで承認された。

備考にして、有資格者か否かについては、受賞者が決定した後に、大学院在籍中あるいは大学院修了後2年以内であるかを確認する方が簡単である、という意見が宗方委員から挙がり、出席者全員の同意を得たため、そのような流れで審査を行うことで承認された。

松原委員より、感想として、審査員の負担が重く（聴きたい発表を聴きに行くなどが難しくなるなど）、この点についてできる限りの改善を期待したい、という意見が挙がった。これに対して、西名主査から、本年度の審査員割り当ての際に、大会プログラムが公表された後、各自スケジュールを組んで頂いて、それを参考に、セッションごとの審査員の割り当てを本運営委員会で議論したので、できる限りの配慮を意図していた、という回答があった。しかしながら、本年度はできる限り全ての審査対象となる研究発表を聴くことが望ましい、と本運営委員会から依頼していたため、2016年度は、例えば審査員の最低人数を決めて対処する、などの意見も挙がった。土田委員から、審査するためには、ある程度発表件数を聴いていないと審査基準が上手く理解できないので審査が難しいという意見が挙がった。この件については、さらなる議論が必要となる。

4. 運営委員会の英文名称について

環境工学本委員会で決定されたように、本運営委員会の英文名称は“Managing committee on ~”と合わせることで承認された。これについて、松原委員から、委員会設置申請書のフォーマット上で、運営委員会の場合は“Managing committee on ~”、小委員会の場合は“Sub-committee on ~”と英文名称を記載しておいてもらえると効率が良い、という意見が挙がった。

5. 2016年度大会 OS への投稿状況について

2016年度大会のOSへの投稿状況について、現時点で各委員が把握している情報を共有した。OSの司会は西名主査が担当することで合意に至った。挙がった意見について、以下に箇条書きにて整理する。

- ・佐野先生との連名で1編を投稿予定。（宗方委員）
- ・秋田研から2編（秋田委員と博士課程の学生それぞれ1編）を投稿予定。（秋田委員）
- ・榎委員が1編を投稿予定。（榎委員）
- ・竹原先生が1編を投稿済み。（土田委員）
- ・前回の感覚・知覚心理小委員会の開催時にOSへの投稿を呼び掛けた。（西名主査）

今後のスケジュールは、投稿締め切り後、3月初旬に西名主査に投稿された原稿が届き、

本運営委員会で採否について議論することになる。採否の審査方法に関して、楨委員から、OSは最大8編までであるため、投稿数が8編以内であれば、その内容を審査し、発表内容で議論が成立する範囲であれば採択するということがよいのではないか、という意見が挙げられた。8編を超えた場合には、採否の審査が重要となる。

6. 各小委員会・WGの活動報告（資料4-3, 4-4, 4-5）

2015年度の小委員会の活動報告、今後の予定、予算執行状況について、各小委員会の主査から報告があった。報告内容を以下に箇条書きにて整理する。

■ 環境心理小委員会

環境心理小委員会主査の楨委員から以下の報告があった。

- ・小委員会傘下の4つのWGが活発に活動している。
- ・チュートリアル運営WGは、2016/3/3にWGを開催する予定であり、次年度のチュートリアルの実施計画などを議論する。
- ・研究手法WGは、2015年度に実施した評価グリッド法のシンポジウム内容の書籍化に向けて検討を進めている。
- ・かわいいWGは、電子書籍の定期刊行を続けており、新たに実験の実施も進んでいる。IAPSで宗方委員と宇治川氏が“かわいい”をテーマとした研究をポスター発表される。
- ・かわいいWGで、宇治川氏の中で書籍を出したいという希望はありそうだが、まだ具体的な内容までは議論されるには至っていない。
- ・文化と環境WGは、各委員が話題提供し、活発な議論が行われている。次回WGでは楨委員が発表することになっている。
- ・環境心理小委員会は本年度第4回を2016/3/3に開催する。
- ・予算の執行について、第4回開催時に、高橋浩伸先生と土田先生の旅費で全ての予算が執行される。
- ・活動報告の自己評価はAとして提出済み。

■ 社会と環境心理小委員会

社会と環境心理小委員会主査の宗方委員から以下の報告があった。

- ・本年度は4回の研究会（5月：松原委員、10月：辻村委員、11月：若林氏、12月：川井先生の講演）を開催した。
- ・研究会を通して、環境心理生理研究の拡がりの現状を整理することに努めている。大野先生のHPは、研究分野の拡がりについて議論を行う際の参考になる。
- ・2016年度は、環境心理生理研究の拡がりを整理した上で、ミニ研究会を開催する予定である。現状では、まだひとまず発散的にサロンのように運営したいと考えている。
- ・2015年度内に小委員会の開催はないので、社会と環境心理の残予算は使ってほしい。
- ・辻村委員から、2016年度の研究会で、駅の案内サイン計画に関するテーマで話題提供できそうと意見があった。
- ・活動報告の自己評価はAとして提出済み。

■ 感覚・知覚心理小委員会

感覚・知覚心理小委員会主査の土田委員から以下の報告があった。

- ・本年度はシンポジウムを2回開催した。
- ・感覚・知覚小委員会は本年度第4回を2016/2/27に開催し、研究会を開催することになっている。3名の方に研究紹介して頂く。
- ・2016年度は光環境関連でシンポジウムをできないか、という議論が進んでおり、開催

可能か否かを含め、原先生と調整を行っていきたいと考えている。

- ・予算は第4回小委員会の開催で使い切られると思われる。

G 【次回の開催日程】

本委員会スケジュールが決定次第、H28年度第1回の開催日程を調整

以上